

IV-2 コルサコフ症候群の年齢失見当に対する 認知リハビリテーションの試み ——どんな cue が有効か——

○笠原 麻里¹⁾ 陣内 由美¹⁾ 加藤元一郎²⁾ 三村 将²⁾
鹿島 晴雄³⁾

はじめに

コルサコフ症候群や老年期痴呆のケースでは、自らの年齢をより若く見積もること (under-estimation of age) が知られている¹⁾。またこの現象は、慢性の精神分裂病でも出現することが報告されている。この年齢に対する失見当識 (age disorientation or disorientation for age) は、臨床的には健忘を伴うケースでしばしば観察される症状ではあるが、その出現頻度や出現メカニズムは未だ明確ではない。また、場所、時、人 (他者) に対する失見当識と同時に出現することもあれば、共存しないこともあり、自らの年齢に対する失見当識と場所、時、他者に対する失見当識の関連も定かではない。自らの年齢を正しく評価できないことは、精神科リハビリテーションや社会復帰に大きな障害となることはいままでもなく、これに対処する方法の開発が必要である。一方、近年発展しつつある認知リハビリテーションの中においては、健忘症に対する記憶訓練が多く注目を集めている^{2), 3), 4)}。今回我々は、アルコールコルサコフ症候群の一症例において、健忘症候とともに顕著な年齢失見当を観察し、これに対する認知リハビリテーションを、いくつかの方法を用いて試みたので報告したい。

症例 YK

61歳女性。昭和9年生まれ。品川区出身、27歳で結婚、子供男子一人あり。夫は、12年前に死亡。以後、家政婦などを行い、長男と2人暮らし。40歳頃より大量飲酒。50歳頃より身体依存を認め、入院数年前からは連日5~6合/日の飲酒。平成6.12.27.より、意識障害、歩行障害および複視が出現。平成7.1.27.某病院精神科を受診した。意識清明。眼振、手指振戦 (terminal tremor)、失調性歩行あり、また、失見当識、重篤な前向きおよび逆向性健忘、および作話を認め、ウェルニッケコルサコフ症候群と診断された。

平成7.2.2.に駒木野病院に入院。入院以後は、数分前のことも想起できず、また結婚を否定するなど逆向性健忘は過去30年以上に及んだ。また自発性作話が活発であり、息子と弟に対する人物誤認も認められた。物忘れおよびそのために入院しているという現在の状況に対して、不安および困惑を示し、時に過呼吸発作を生じる。特に自分の年齢に関しては、18歳から50歳までの間を変動し、場所、時、人に対する失見当識と共に、著明な年齢失見当が認められた。脳波は正常範囲内であり、脳CTでは軽度の全般性脳萎縮を認めるが、局在性病変は認めない。

方法と結果

平成7.7月より、約一年間にわたり、以下の4つの方法で失見当に対する認知リハビリテーションを施行した。訓練は、4つの方法すべて、週2回の頻度で一つの訓練法につき合計16回行われた。訓練者は看護婦1名が1年間継続して行

1) 駒木野病院

2) 東京歯科大学市川総合病院精神神経科

3) 慶應義塾大学医学部精神神経科

い、これとは別の看護婦が訓練とは異なる機会に週一回の評価を行った(客観的評価)。また、各訓練の開始前に現在年齢の再生と再認(6択)、生年月日の再生、現在の時(年と月)の再生と再認(4択)を施行し、終了後に現在年齢の再生を行い、評価として用いた。

1) 現実見当識訓練(Reality Orientation) : 現在年齢、生年月日、現在の場所(駒木野病院の名前とその所在地)、時(年月日、季節)、人物(訓練者の名前と職業)に対する見当識訓練。各項目について、再生と4択による再認課題を施行後、誤答を訂正し正解を直接教示する。

結果: 生年月日の再生は一貫して良好であった。時、場所、人物の再生は不能で改善を認めなかった。しかし、時、場所、人物の再認は良好となり改善が認められた。現在年齢については、再生と再認の両者ともに不良で、訓練を重ねても全く正答に到らなかった。この訓練により、症例YKでは、年齢に関する見当識がより顕著に障害されていることが示された。このため、年齢失見当をターゲットとして、2)の訓練を開始した。

2) 年齢失見当に対する論理的訂正訓練(Logical Correction) : 図1のような年代的連鎖

(chronological sequence)のチャートを呈示し、まず他人の年齢を10年おきに計算させる(昭和39年に生まれた人は今何歳ですか、昭和19年に生まれた人は今何歳ですか?)。続いて、図2のような症例YKの生年と現在とを示したチャートを呈示し、症例YK自身の年齢を10年ごとに質問する(昭和19年にあなたは何歳でしたか、昭和49年にあなたは何歳でしたか?)。誤答は、すべて訂正される。最後に、平成7年には何歳かを質問し、その直後に「では、今あなたは何歳ですか」と質問する。なおこの訓練は、知能検査の算数問題における症例YKの成績が比較的良好であること、および1)の訓練において生年月日の再生および時の再認が良好であることに基づいている。

結果: 訓練直後の現在年齢の再生では、60歳ないしは61歳という答えが増加し、改善が認められたが、他の評価を用いた現在年齢の再生および再認では改善がみられなかった。

3) 年齢失見当に対する、過去の有名な社会的事件の記憶を手がかりにした訓練(Training by Cues of Memory for Public Events) : 昭和9年から平成7年までに起こった有名な事件を10年

図1 論理的訂正訓練に用いられたチャート(1) : 他人の年齢を計算する

昭和9年	昭和19年	昭和29年	昭和39年	昭和49年	昭和59年	昭和64年=平成1年	平成6年	平成7年 (昭和71年)
()歳	()歳	()歳	()歳	()歳	()歳	()歳	()歳	()歳

例: 「昭和19年に生まれた人は何歳でしょうか?」

図2 論理的訂正訓練に用いられたチャート(2) : 自分の年齢を計算する

昭和9年	昭和19年	昭和29年	昭和39年	昭和49年	昭和59年	昭和64年=平成1年	平成6年	平成7年 (昭和71年)
YKさんの 生まれた年								今 現在
()歳	()歳	()歳	()歳	()歳	()歳	()歳	()歳	()歳

例: 「昭和19年にあなたは何歳でしたか?」

ごとに7件選択する(例えば、終戦や東京オリンピックなど)。図2のチャートを呈示し、事件の生じた年をチャート上で示した後、まず事件の名や関連した人物に関する再生および再認(4択)課題を行なう。次に、この事件が起こったときの症例 YK 自身の年齢を10年ごとに質問する(昭和39年のこの事件が起こった時、あなたはいくつでしたか?)。事件の内容についての十分な話合いを行ない、その想起を促し、誤答はすべて訂正される。平成6年の事件をヒントとして、この時の年齢を問い、最後に、「では、今あなたは何歳ですか」と質問する。

結果：訓練直後の現在年齢の再生では改善が認められたが、他の評価を用いた現在年齢の再生および再認では改善がみられなかった。また、事件の再生は良好であるにもかかわらず、年齢の再生が不能な場合があり、社会的事件の再生と年齢の再生に関連が認められなかった。

4) 年齢失見当に対する、自伝的記憶を手がかりにした訓練(Training by Cues of Autobiographical Memory)：家族からの情報により、症例 YK の1歳から60歳までの間に起こった人生上の重大事件を、10年後ごとに7つ用意する。3)と同様に、自伝的記憶の再生と再認課題、その時の年齢の想起、その出来事についての話合いと訂正を施行する。平成5年の事件をヒントとして、この時の年齢を問い、最後に、「では、今あなたは何歳ですか」と質問する。

結果：自伝的出来事の再生が良好な年代では、年齢も正答することが多く、また、30歳から40歳における自伝的記憶の再生と年齢の再生が訓練経過の中で平行して改善した。さらに、客観的評価における現在年齢の再生は、訓練前半37.8歳、後半52.3歳であり、改善が認められた。

考察

年齢失見当の著しいアルコールコルサコフ症候群の一例に対して、単純な反復教示である見当識訓練、単なる計算による論理的訂正を用いた訓練、さらに過去の社会的事件ないしは自伝的記憶を手がかりとした年齢の再生訓練を施行した。論理的訂正訓練と社会的事件による訓練では、訓練直後の現在年齢の再生では改善が認められたが、その改善は一過性であり持続しなかった。しかし、自伝的記憶による訓練では改善が認められ、その効果は訓練期間中持続した。年齢失見当例の訓練には、過去の自らに関連した自伝的出来事の記憶を正確に教示し、想起を促進することがより有効であると考えられた。

【文献】

- 1) Zangwill O L and Cantab MA : Dis-orientation for age. J. Ment. Sci., 99 : 698-701, 1953
- 2) 原寛美ら：記憶訓練の適応と限界. 臨床リハ, 4 (7) : 633-638, 1995
- 3) 加藤元一郎ら：記憶障害のリハビリテーション——最近の動向. 脳と精神の医学, 7 (2) : 223-229, 1996
- 4) Wilson B : Rehabilitation for memory. Raven Press, 1987